



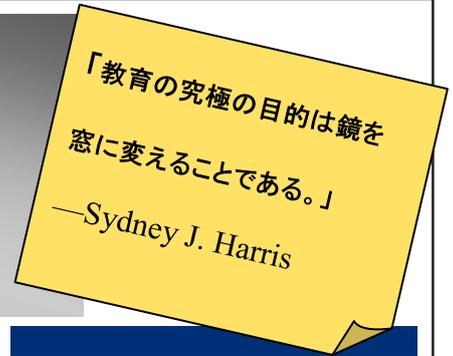
The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 21 | Issue 2 | December 2017

➡ In this issue...

- ▶02...スクールカレンダー2018-19
- ▶03...学習奨学金
- ▶04, 05...K.20 セレブレーション
- ▶07...いじめ防止集会
- ▶10...K1 Buddy Readingの時間
- ▶11...K2Aで多様性を祝う
- ▶12...1年生が変化について考える
- ▶17...MYPでの学習
- ▶18, 19...模擬国連会議
- ▶21...ゴミの処理
- ▶22...G7 キャンプの振り返り
- ▶25...KPASS 演劇フェスティバル



学校長より



KISTコミュニティの皆様、

昨年末のIB及びCIS訪問からもう一年経ってしまったことが信じられません。CISの認可によりKISTは質の高い教育プログラムを提供する信頼のあるインターナショナルスクールとしての地位を確立しました。そして、KISTの今後の成長をさらにサポートしてくれるネットワーク団体に加入することも可能になりました。

このような団体の一つに東アジアの158校が加盟する [East Asia Regional Council of Schools \(EARCOS\)](#) があります。EARCOS のミッションはリーダーシップと奉仕を通して大人と子供の学習を啓発し、学習コミュニティ内での異文化理解、地球市民としての責任感、そして卓越した教育指導をもたらすことです。EARCOS は50年以上に亘って東アジア地域の学校をサポートしてきた実績を持ちます。10月に EARCOSの Executive Director の Dr Dick Krajczar にお越しいただき、高い志を持つ加盟校の仲間入りを承認して頂けたことを誇らしく思います。11月には日本国内の27のインターナショナルスクールが加盟する [Japan Council of International Schools \(JCIS\)](#) への加盟審査の一環として、代表チームの訪問をお迎えしました。この団体は日本国内の英語教育を行っている真の意味でのインターナショナルスクールコミュニティが教育の質を維持するために協力関係を築くことを目的としています。審査の結果は 2018年春に開かれる JCIS の理事会の後に知らされる予定です。これらの組織に加盟することで、スタッフのネットワークや研修機会など KIST の教育や学習にも有益です。また、KIST が国際教育におけるリーダーとして更に発展する機会を提供してくれます。

皆様、今年のみ KISTival に変わって行われた K.20 祝賀イベントをお楽しみいただけただけでしょうか？たった一人の生徒のために創設され、その後短い時間で日本のトップ IB 校に成長し、卒業生を世界のトップ校に送り出してきた KIST にとって記念すべき時を、学校を支援して下さった保護者、卒業生、その他の皆様と祝うことが出来たことを嬉しく思っています。今年のイベントでは保護者の方にも「お休み」して頂き、お子さんと楽しむ時間を持っていただきたいと考えていましたが、それにもかかわらず、お手伝いを申し出て下さった皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました！今回のイベントを成功に導くために尽力して下さった全ての生徒、保護者の皆さんに感謝します！また、今回好評だったスタッフによる文化的パフォーマンスは今後も続けていけたらと思っていますースタッフと保護者によるポリウッドダンスが実現するかも???

次のページに続く

DATES TO REMEMBER



2017年12月

- 8 (G1-G12) Clubs program ends / (K3-G5) LEAP classes end
- 8 (K1-K3) After care not available on this day
- 11-13 (G9-G11) Semester 1 examinations
- 13 (G6-G12) SRC dance
- 14 (W) Winter celebration rehearsals
- 15 (W) Winter celebration
- 15 (K1-G3) After care not available on this day
- 16-Jan 7 Winter vacation
- 18-19 Office open

2018年1月

- 8 Staff development day (No school for students)
- 8 2018-2019 enrollment applications close
- 9 School resumes for all students
- 9-16 (G12) Semester 1 DP mock examinations
- 12 (G4-G5) Mathematics diagnostic testing
- 19 (G6-G10) Mathematics diagnostic testing (*Morning)
- 19 (S) End of Semester 1 (Half day for students)
- 22 Semester 2 commences
- 22* (K3-G5) Semester 2 LEAP classes begin this week (*New date)



PYP | MYP | DP

前ページの続き

12月は KIST にとって試験シーズンの始まりです。冬休み前にセカンダリースクールの試験があり、1月の休み明け第1週には G12 最初の DP 模擬試験が実施されます。12年生にとっては授業の終了、出願手続き、DP 最終試験の準備と、非常に忙しい時期となります。G12 の皆さんの健闘を祈ります—皆で G12 を応援しています！

保護者、教職員、生徒、そしてその他の支援者の皆さん—2017年度の KIST へのご支援に感謝します。ウィンターコンサートを是非お楽しみ頂き、素晴らしい2017年の締めくくりを迎えられることを祈っています。また、2018年の1月に皆さんと学校でお会い出来ることを願っています。

Happy holidays everyone!

Jeffrey Jones
Head of School



スクールカレンダー2018-19



ご家族の旅行、特に海外への旅行計画などの利便性を考え、2018-19年度の長期休暇や重要な行事日程を以下に記載します。

ご家族には、生徒が休み明けに必ず登校できるよう日程をご確認の上、旅行等の計画を立てて頂けますようお願いいたします。

カレンダーの完全版は 6月に配布されます

- **新学年度生徒始業日:**

2018年8月20日

- **キスティヴァル:**

2018年10月27日

- **秋期休暇:**

2018年10月28日～11月4日

- **冬期休暇:**

2018年12月15日～2019年1月6日

- **春期休暇:**

2019年3月23日～31日

- **ゴールデンウィーク休暇:**

2019年4月27日～5月6日

- **生徒の最終登校日:**

2019年6月12日

理事長よりご挨拶

今年の残り僅かとなって参りましたが、皆様には元気で過ごしのことと存じます。

さて、10月28日のK.20感謝祭には、KIST在校生のご家族、卒業生や在籍されていた方やそのご家族、そしてKISTを支えて下さっている方々がたくさんお見え下さり成功裏に終えることが出来ました。当日お越し下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

そして、日常の業務だけでも忙しい中、ご協力頂いたスタッフの皆様、そして生徒の皆様、本当にお疲れ様でした。

残念ながら自分の職務もあり当日の催しをあまり見ることは出来ませんでした。私が感動したのは、体育館でのパフォーマンスを見た時です。そこにはセクションの垣根は全くなく、KIST全体が一つになっていました。エレメンタリースタッフ、セカンダリースタッフ、オフィススタッフ、生徒が一体となって演技し、それを見る保護者、来賓も含めてKIST familyとして一つになっていました。

その感動は今もありありと心に浮かんできます。みんなの居場所KISTという意識を心から感じる事が出来ました。これからもいつでもこのような暖かいfamiliarな雰囲気漂うKISTであることを心から願っています。

また、当日もご案内致しました通り、新校舎建設計画がいよいよ具体化して参りました。KISTにとって大きなプロジェクトであり、一部の建設資金をカバーするために現在寄付金を募っています。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

皆様におかれましては寒さ厳しくなる折から十分に各自愛下さい。そしてよい年を迎えられますように！

Yoshishige Komaki
Board President



学習奨学金

KIST 大学支援奨学金は熱心に学習し、最後の2学年のDPコースで高い成績を収め、最終試験で40点以上を修めた生徒に贈られるものです。今年の2017年度卒業生からは13人の生徒がこの奨学金を受け取りました。これはKIST史上初の快挙です。皆さん、本当におめでとう! 皆さんの今後の学生生活の成功を心より祈っています。

KIST 大学支援奨学金

Silver Awards



Akira



Hardik



Rithwik

Bronze Awards



Aika



Amartya



Arjun



Hana



Hiroya



Mirabelle



Nina



Sophia



Takumi



Thayalan

K.20 Celebration

今年KISTは開校20周年ということで、これまで様々な皆さまからいただいたご支援への感謝と、これからも変化し続けるKISTを発信するという目的で、通常の学園祭ではなく、特別イベントとしてK.20 Celebrationを企画しました。多くのKISTコミュニティの皆さまと一緒にK.20をお祝いすることができましたこと、大変うれしく思っております。また当日は、卒業生やそのご家族、過去に勤務していた懐かしいスタッフなど、例年以上に多くの懐かしい顔とも合うことができました。

保護者の皆さまにおかれましては、普段の学園祭とは違い、保護者ブースのお仕事から開放され、ゆっくりとお楽しみいただけたとの感想も多くいただくことができ、嬉しく思っております。来年からはまた通常の学園祭に戻ります。2019年6月からの新体育館建設工事着工のための第2次建設寄付募集も始まりました。建設寄付目標達成のため、保護者の皆さま、どうぞご協力の程よろしく願いいたします。今年度の収支報告は以下の通りです。収益は新体育館建設への寄付とさせていただきます。

【収支報告】

総収入:	5,729,761円
総経費:	2,922,233円
TASSEL、HFH売上:	296,185円
収益:	2,511,343円

K.20運営へ多くの皆さまからのご協力、ご支援をいただきました。改めて心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

- G7, G3 Minoura family: 今年もスクールバスの駐車場を無償提供していただきました。スクールバスの移動先がなければイベントを行うことができませんので毎年大変助かっております。
- G6 Li family: K.20運営特別協賛スポンサーとして運営費へ高額のご寄付をいただきました。
- K1 Takeuchi family: 北海道物産品販売、ゲーム用景品へ商品を大量にご寄付いただきました。
- K1 Suzuki family: Drinkブースで販売した全ドリンクをご寄付いただきました。
- ラッフル抽選会への景品スポンサーとして沢山の企業様からご協力いただきました。順不同ならびに略称でご紹介させていただきます。
- 有隣堂、東武トップツアーズ、伊藤園、ACミランアカデミー東京Office、鹿島建設、松田平田設計、平和不動産、鹿島建物総合管理、住友不動産建物サービス、三菱東京UFJ銀行、東京都民銀行、みずほ銀行、りそな銀行、六本木ヒルズクラブ、Prologis、ポートマンズ、関谷理化、りかしつ、Glass Lab、東京セントラル、プリント貿易、サンテクニカル、田中被服、アサヒエーシー、青木司法書士事務所、いちがや会計事務所、ingパートナーズ、トーコロ、トータルドライバーサービス、日盛運輸、長谷川体育設備、日伯、鈴盛商会、ナックブランニング、ワクワク引越サービス、村中建設、クロスター、大江戸不動産、イシイ保険事務所、ヒカリホーム、Brigela
- 多くの保護者の皆さまからもラッフル抽選会への景品スポンサーとしてご寄付いただきました。順不同でご紹介させていただきます。
G1B Terao family, G4&K3 Toda family, K2 Itoyanagi family, G3 Kobayashi family, K3 Hayashi family, K2 Ogawa family, K1 Sakashita family, G12&G6 Pisor family, G11&G7 Yang family, K3 Kim family, K1&G3 Horii family, G1&G5 Hiramoto family, G6 Suzuki family, G5&G7 Tsukamoto family, K2&G1 Lyu family, G5 Wu family, G3 Sugiura family, K3&G3 Ogawa family, G1 Ono family, K3 Takada family, G2 Abe family, G3 Matsudaira family, G7 Matsunami family, K2&G1 Shirai family, G7 Gaba family, K3 Usui family, G10 Molligoda family, G2 Raj family, Moroguchi family, Sato family

また、スタッフの運営するブースへボランティアに来てくださいました、G11、G12そして卒業生保護者の皆さまにも心から感謝いたします。

保護者ならびに生徒の皆さん、今回のイベントへのフィードバック、来年度の学園祭に向けてのアイデア等、sayoko.naito@kist.ed.jp までお送りください。

【K.20補足】保護者の皆さまに以前お配りしております20周年記念冊子、追加をご希望の方はオフィスにお知らせください。





.20 Celebration

2017年10月28日(土)



エレメンタリースクールニュース

appreciation

noun ap·pre·ci·a·tion \ ə-, prē-shē-'ā-shən, -,pri- also -,prē-sē- \
—the feeling you have when you are grateful

一年を通して感謝の気持ちを表すことを信念としていますが、年度末には特に全てのことに対する感謝の念が強くなります。最近、世界の9人に1人が一日2ドル以下で生活をしているという統計を目にしました。世界の多くの人たちが、私たちが朝飲んでる1杯のコーヒーに使うよりも少ない額で生活しているのです。

世界中の多くの人にとって、年度末には楽しみな祝祭が目白押しでしょう。学校コミュニティの多くの方は親戚に会うため、暖かなビーチで日光浴を楽しむため、または温泉や、雪山でスキーを楽しむために電車や飛行機での移動をされるのではないのでしょうか。私はこのような余暇を楽しむことが出来、子供たちが良質の教育機会を得ていることをとても幸運に思っています。私たちが労働の対価を楽しむことが出来るこの時期にこそ、自身が持っている多くのものに感謝の気持ちを表すべきだと感じます。皆さんの当然の権利である休暇を存分に楽しみつつ、ご家族と今あるすべてのものに感謝する時間を設けて頂けたらと願っています。

皆さんが安全で、安息に満ちた、楽しい冬休みを過ごされますように！

Happy holiday to all!

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



PYPニュース

Where we are in place and time... (時代と場所の中で...)

皆さんのお子さんは毎日エレメンタリーで様々な教科を学んでいます。Primary Years Programme (初等教育プログラム)において最も重要なのは 'unit of inquiry' (探求単元) です。カリキュラムのこの側面は授業によって子どもたちが学ぶのに必須の要素です。単元の中には**知識、概念、スキル、態度、そして行動**という必須である5つの要素が含まれます。これらを通してお子さんたちが得た知識がしっかりとした形をなすのです。授業では多様かつ刺激的な内容や教材を扱うように計画されます。各単元は教員たちが協力して計画し、超教科的要素・内容が含められるように考えられています。単元は時間・時代に縛られないと同時に、「旬の」内容を含む事もあるのです。

年末、そして楽しい冬の休暇が近づく今の超教科単元は Where we are in place and time... (時代と場所の中で...) です。これは生徒たちがクラスで探求するテーマに良く沿うものです。文化・文明、血統・家系、先祖伝来の財産、個人や家族の歴史、民話、家庭、旅行、個人や文明とのつながりなどのテーマは全てこの時期に行われる家族の行事で与え、共有し、共に祝う事柄につながっています。年度末はこれまで達成してきたこと、出来なかったことに思いをさせ、友人や家族の愛情や思いやりについて考える時です。また、これからの目標設定や人間関係、人生、自分自身に関する決断などを行うのもたいていこの時期です。来し方を振り返り、自己評価を行うことで世界やそこで生きる人々に関する新たな知識を得ることができます。時代や様々な場所の中で世界がどのように推移してきたかについて関連付け、理解する事もこれにつながります。

冬の休暇や各種行事に対する考え方は各自違うとは思いますが、ご家族がどこから来て、どこに行くのか、そして家族史については是非お子さんと話す機会を持っていただきたいと思います。新たな抱負と共に過去や伝統についても是非話し合われてください。そしてその際には、“Where we are in place and time.”を心の片隅に置いておいてください。

Happy holiday!

Clay M. Bradley
PYP Coordinator / Elementary School Vice Principal



いじめ防止集会

最近エレメンタリーの建物を訪れた方は美しい翼をモチーフにした黒いポスターを目に留められたのではないのでしょうか。この翼は生徒たちが自身個性を認識し、祝うために、自分の才能や与えられた物について書いた小さな紙の羽が集まってできています。Ms Catが、小さな子供たちも視覚でこの概念を理解できるよう、これらの羽を用意し、ポスターを作ってくださいました。このポスターの真ん中に立って写真を撮ると、翼があるように写りますよ！



今、いじめは国全体の問題になっており、国を挙げていじめの防止対策に乗り出しています。生徒の社会的、精神的、そして行動における発達を見守るという役割に則り、学校で誰もいじめられない様にするにはどうしたら良いかについて集中的に考える時間を設けました。

今年のいじめ防止週間のテーマは「みんな違って、皆平等」でした。生徒たちが自分自身について、そして他者の特徴について考え、何故学校で誰も仲間はずれにせず、いじめの心配なく自分らしくいられることが大切なのかを理解する事を目標としました。

コミュニティサークルの時間でSEALプログラムを活用することで、生徒たちはいじめを見たり、当事者となった時にどうしたら良いかについての知識、理解、そして自信を身につけることが出来ました。

生徒たちのこれまでの努力を祝い、共有するために、12月5日に集会を開きました。K2Aの生徒たちは自身の才能について説明し、G3有志による演劇が続きました。最後に3年生全員が「Everyone is Different」という歌を音楽教師の Mr Collins と合唱しました。演劇に出た有志たちはセリフをしっかりと覚え、動きを間違えないよう、何度も練習を重ねました。皆さん、良く頑張りました！

演じたのは生徒だけではなく、スタッフも参加しました。Ms Watanabe、Mr Sullivan、Mr Norwood も親切に参加を申し出てくださいました。皆さん、サポートに感謝します！！



↑アセンブリーの様子はこちら！

Kana Furnival
Student Care Coordinator (Elementary)



幼児教育ニュース

ランゲージゲーム

もうすぐ子ども達が楽しみにしている冬休みですね。冬休みは皆さん、家族で過ごされることが一番多い休みとなるのではないのでしょうか？そして、KISTの家庭の皆さんは、そのために飛行機に乗ったり、電車に乗ったり、あるいは船であったりと、旅をするご家庭が多くあることと思います。その待ち時間を利用して、昔、自分たちが子どもだった頃によくやっていた言葉遊びを楽しんでみませんか？多種多様なゲーム機が発達し、電子機器に向かって過ごしたり、遊んだりする子ども達をたくさん見かけますが、色々な研究によると、幼い子ども達が一番に言葉を吸収するのは、身近な大人たちとの関わりの中からと結果が出ています。是非、時間を見つけて、楽しんでみて下さい。



I Spy.....

お父さん、お母さんが車を運転している時、遊びませんでしたか？

I spy with my little eye, I see something round and red...

Yellow Car.....

こちらの言葉遊びはどうでしょうか？黄色い車を見つけたら5点、赤い来るかは1点、青い車は2点など、算数のゲームとしても遊べますよね。

Alphabet Game.....

お子さんがABCの順番をすっかり覚えていて、ある程度の言葉を知っている場合は、このゲームが楽しいです。まずはトピックを決めます。例えば「食べ物」とか「ピクニックに持っていくもの」とかです。そして、順番を決めて、アルファベット順に言葉をつなげていきます。その際、前に行った人の言葉を覚えていなくてはいけません。ゲームは以下のように進んでいきます。

Person 1: I am eating apples.

Person 2: I am eating apples and bananas.

Person 3: I am eating apples, bananas and carrots.

Person 1: I am eating apples, bananas, carrots and doughnuts.

アルファベット順であったり、前の人が出た言葉を覚えていなくてはいけなかったりしますが、選んだトピックによって、文節を変えるのは自由です。食べるから持っていくにしたり、行くにしてみたり、色々と遊べますね。

Shiritori.....

こちらは日本の伝統的な「しりとり」です。みなさんご存じのように「しりとり」は一番最後の音を使って、どんどん新しい言葉を考えていきます。「しりとり」、「りす」、「すいか」のようになります。日本語のお言葉を増やすのにとってもいいですね。でも、英語の言葉を増やすのにも使えます。例えば、'egg'、'glass'、'snake' と最後の文字ではなく音を拾ってつなげていく感じです。もしくは一番はじめの音を拾って、その音で始まる言葉探しもできます。'snake'、'snack'、'snail' という感じです。

どうぞ皆さん、楽しい冬休みをお過ごしくださいね。

Eri Ozawa

Early Childhood Coordinator (K1-K3) / K1B Teacher

怒りのコントロール



今、怒っていますか？身体の中に今にも噴火しそうな火山を抱えているような気持ちになりますか？もしそうなら、K3の専門家の提案する方法を試してみてください。K3はこれまでコミュニティサークルの時間に怒りの様々なレベルとその克服法について探求してきました！

“ **楽しい歌を歌う！**
Yuka (K3B)

“ **15まで数える！**
Ramya (K3A)

“ **すごく優しい言葉を使う**
Soren, Anne, Yuri (K3A)

“ **お友達と何かを描く**
Kina (K3B)

“ **深呼吸をする**
Nina (K3A)

“ **楽しいことを考える**
Soo Hyun (K3B)

皆さんの心が晴れますように！

Christie Chung and Kay Shinada
K3 Teachers



K1授業と保護者サポート

私たちの単元、Who We Areの中心となる考えは「私達はコミュニティ内で互いに協力し合い、そのことを通して学んでいる」です。どちらのクラスの保護者の皆さんも非常に協力的で、人々がどのように助け合っているかを共有することを申し出ていただきました。ご協力頂いた保護者の皆さん、有難うございました。

Claire Yoneyama

K1A Teacher

Meiのお父様はセカンダリー教師とKISTバスケットボールコーチとしてのお仕事、どのように大きな生徒たちを教えているのかに伝えてくださり、大きな生徒たちが読んでいる本とK1の絵本の違いを比べて見せてくださいました。また、子供たちが今でも毎日楽しく歌っている、I'm So Happy という歌も教えて下さいました。



Oliverのお父様はセカンダリー校長としてどのようにセカンダリーの生徒たちや保護者の皆さんの手助けをしているのかについて話してくださいました。大きな生徒たちの写真もたくさん見せてくださり、子供たちはその中からMr Markを探しました。Mr Markより背の高い生徒も大勢いたので、これはなかなか難しかったです。



Toyaのお父様は薬剤師のお仕事と、薬局・調剤室の中にあるものについて教えて下さいました。また、2つの異なるゲル状の液体を使って保湿効果のあるクリームを実際に調合してみせて下さいました。



Aoiのお父様は警察官のお仕事と、どのように皆を助けているのかについて、3つの大切なことを話してくださいました。

1. 皆の安全を守ること
2. 困っている人を助けること
3. 悪い人を捕まえること



Masayukiのお母様は眼科医としてどのように人々を助けているのかについて生徒たちに共有してくださいました。また、検眼表をどのように使って見え方を測るのかについても教えて下さいました。目を健康に保つ方法についても教えて下さいました。

1. テレビやコンピュータ、デジタルゲームは短時間のみにすること
2. ブロッコリーやかぼちゃ、ほうれん草など緑の野菜をたくさん食べる。スープ類、野菜、お米、肉や魚などバランスの取れた食事をすること



Tae Wooのお父様はお医者様として病気の人達を助ける方法についてお話してくださいました。聴診器、色々な注射器や何度も針を刺さなくていいように血管を探ることが出来る特別な器具などを見せて下さいました。



Raianのお父様はレストランのスタッフがどのように人の役に立っているのかについて離して下さいました。そして子供たちは実際にレストランを訪問して、キッチンを見学させていただきました。そこで生徒たちはフルーツと飲み物を振る舞っていただきました。



Masayukiのお父様は歯科医の職業について教えて下さいました。子供と大人の歯の違いを実際に見せながらお話してくださいました。また、子どもの歯は全部で20本で、大人の歯は28本あるということも教えて頂きました。お子の歯が抜けた後、どのように大人の歯が生えてくるのかも教えて下さいました。また、虫歯予防のために歯を磨く事の大切さについてもお話していただきました。



K1 Buddy Readingの時間

皆さんもご存知のようにElementary Schoolでは、参加している生徒みんなが色々と学べる、Buddy Readingの時間があります。(詳しくは *The Comet*, Volume 20, Issue 2 をご覧ください)今回は参加者からコメントをもらいました。コメントから読み取れるように、一週間に一回の活動ではありますが、教員、生徒それぞれのコメントから、小さな子ども達だけでなく、年上の学年の生徒たちも、IBのもと、学ぶ生徒として活動していることが鑑みられます。皆さんも、この活動を通して、いくつかのIB生徒像や態度を見ることが出来ますか？



Teachers

“年少クラスである、K1クラスのBuddyであることはG5の生徒にとってはとても有益なことです。生徒たちはK1の子ども達と過ごすことによって、我慢強く待てたり、気を使ったり、親切にしたりすることを学んでいます。また何よりもみんなが笑顔になっています。(Mr Matt, G5A)

“K1クラスの子供達との学びの時間は、G5クラスの生徒にとって、とても意味のある時間となっています。K1の子供達をサポートする中で、G5の生徒たちはより積極的に会話をするようになり、気遣うようになり、責任をもって行動できるようになっています。この活動はDPでのCommunity Serviceへの良いあしがかりであり、G5の生徒たちはとても良い経験ができています。(Mr Scott, G5B)

“K1クラスはG5の友達ができとてもうれしく思っています。色々な活動をする中で、G5の生徒たちは、K1の子供達をサポートしたり、手助けしたりしてくれ、K1の子供達がより、自信を持てたり、話ができるようになりしています。K1の子供達は、G5の生徒たちを遊んだり、本を読んでもらったりすることをとても楽しみにしています。G5の生徒達が自分たちの休み時間にも手伝いに来てくれるので、K1の子供達はほとんどのG5の生徒の名前を覚えてしまっています。(Ms Claire, K1A)

“この時間での関わりを通して、G5とK1の間には特別な関係が生まれています。G5の生徒たちはK1の子供達がきちんと物事をわかっているか、気にかけてくれます。K1の子供達が登園し、並んでいるところにもG5の生徒たちは毎朝やってきて、泣かずに並んでいるか見に来てくれます。(Ms Eri, K1B)

G5 students

“K1のお友達に本を読んだり、絵を描いたり、ノリを使ったり、ハサミで切ったり、形を探したりするのを教える時、K1の友達は学んでいるんだと思います。(Haruka, G5A)

“G5 reading buddiesの時間は私の大好きな時間です。K1の友達はいつも笑っていて、色々な考えが浮かんできます。K1の保護者のように、K1の子供達の成長が見られるんです！(Nao, G5A)

“Buddy reading timeの間、僕はもっともっと教えてあげて、K1の子供達の知識が増えればと思います。(Noa, G5A)

“Reading buddiesの時間はK1の友だちと同時に私の読む力も育ててくれます。毎朝、K1の友達から私は元気もらっています。(Prakariti, G5A)

“私は楽しい活動の中でK1の子供達を教えることができBuddy timeが大好きです。小さい子供達とどのように関わったらいいいのかを知ることはこれからのためにとても身になると思います。(Aadya, G5B)

“Leonや他のみんながとても可愛いので、私はBuddy Readingの時間が大好きです。そして、K1の友達にLiteracyやMathを教えるのが大好きです。小さい子の面倒を見る準備はもう万全です！(Sophia, G5B)

“私はBuddy timeが大好きです。一緒に過ごしたり、教えたりするのはとても楽しいです。K1の友達の面倒を見るのはとても楽しいし、みんながとても可愛いと思います。(Feiru, G5B)

K1 students

“嬉しい！だってね、G5のお友達が手伝ってくれるから。(Tae Woo, K1A)

“わくわくする！本を読んでくれるの！(Sena, K1A)

“絵を描くの手伝ってくれるんだよ。(Alisa Z, K1A)

“5年生が来てくれるから、嬉しいの。(Teppe, K1A)

“G5Aが好きなの！SumireとHarukaとSam！(Yuyu, K1B)

“YujinとCherryが来ないからAfternoon Snackは嫌なの！(Hayoung, K1B)

“SumireとねShota、G5Aが来るの。嬉しいんだ。(Fiona, K1B)

K2Aで多様性を祝う

多様性のある教室とは、人種、文化、宗教に関わりなくすべての人が受け入れられる環境のことです。日々変化する世界において多様性は非常に重要です。優良な地球市民として、文化、人種、宗教に関わりなくすべての人を受け入れ、仲良く出来るように学んでいきたいものです。

この考えと、いじめ防止週間に絡めて、K2Aの生徒たちはコミュニティサークルの一環として自分たちの違いについて話し合いを行いました。生徒たちはこの話し合いを通して、教室だけでなく、学校コミュニティで誰一人寂しく思うことがないように、何が自分を特別にするのか・自分だけの特徴について探求しました。

この会話を元に生徒たちは自身の「芸術作品」を作り上げました。この作品は各生徒が「自信を持っているもの」で飾り付けられ、その後クラスメートたちがその作品で気に入った所についてインプットするというコラボレーション作品となりました。

クラスの生徒達は最終的にエレメンタリー集会で自分たちの意見を楽しく発表しました。

Catherine Wells
K2A Teacher



1年生が変化について考える

G1が探究単元で、学校の創設者にインタビューを行いました

2番目のユニット、'Where we are in place and time'で、1年生は年月の間に変わっていくものについて探求してきました。クラスでは時間とともに変わっていく物や人間の变化、そしてその理由についても探求しました。この単元で学習していく中で、1年生は様々な物-電話、車、そしてミッキーマウス！の変化と理由について考えました。学習が進むにつれ、1年生は自分たちの変化についても考えるようになりました。Summative(包括的評価)課題として、1年生は先生方の人生における変化についてインタビューを行い、時間軸に沿ってクラスでの発表を行いました。

生徒たちはその中で、学校がどのように変化してきたかについても考えるようになりました。丁度今年がKISTの20周年ということもあり、この単元で学校の変化について考えるのに最適だと考えました！子どもたちはKIST創設者の小牧ご夫妻をお迎えし、学校の変化についてお話した



き、更には直接質問ができる機会をとても楽しみにしていました。

子どもたちにとって、少数の生徒と、先生から始まった

KISTがどのように600名以上の学校に発展していったかを聞くのはとても興味深い

ことだったようです！生徒たちは校舎の変化や、これからの学校の建築計画など、過去と現在について考察する単元学習に関するお話を熱心に聞いていました。生徒たちは学校の理念がどのように発展したかを特に興味深く聞いていました。小牧ご夫妻が当初、子どもたちが安心して通える楽しい環境を提供するためにKISTを創設し、その後、生徒たちが熱心に学ぶ重要性に気付かれた時の話をしてくださいました。単元の一環として人や建物、教育理念の変化について聞くことは生徒たちにとってとても意味のあることでした。

学校創設者の小牧ご夫妻と直接お話できたことはとても素晴らしい経験でした。今のG1がこれからのKISTでの学生生活の中で、学校が経てきた変化と、これからの発展を記憶にとどめていくことを願っています！

Jennifer Campbell and
Wilhelm Merchel
G1 Teachers



新任スタッフ



The Comet 先号が発行されてから新メンバーが一人増えました。エレメンタリーG3クラスのELSインストラクター、Lina Shigemitsu です。

学校コミュニティを代表してお二人が新しい役職とKISTでの生活を楽しんでくださることを願っています。



Lina Shigemitsu
ELS Instructor (G3)

エレメンタリーの新しいインターン



こんにちは、Pavitra Segar です！これまで数週間、マレーシアの Taylor's University のインターンシッププログラムの一環として、G3とG4の先生方の授業を見学させていただいています。

KISTの生徒も先生方も素晴らしい教育観を持っているので、その一員になれたことを嬉しく思っています。ここに来て、探究型学習のファンになりました。KIST

コミュニティの皆さんがとてもあたたかく迎えてくださったので、これまでとても良い経験をさせていただいています！これまで馴染んだ環境を出て、東京に来るといのは大きな挑戦でしたが、ここに来てみて、これまでで一番良い決断だったと確信しています。人、文化、食べ物、その他どれをとっても帰りたくなることばかりです！まだまだ学ばなければならないことは多いですが、近い将来教師になるのがとても楽しみです。

学校コミュニティでMs Segarを温かく迎えて下さい。

エレメンタリーELS

'Inquiry is Universal' (ユニバーサルな探究) 掲示板: 家族のサポートに感謝

保護者の皆様、

The Cometの9月版でお知らせしたように、ELS スタッフはエレメンタリーオフィス外の壁に "Inquiry is Universal" という語彙の掲示を始めました。この企画は熱狂をもって迎えられ、お子さんたちは皆この掲示が大好きで、ここから多くを得ています。この企画をサポートしてくださっているご家族には感謝しかありません。スタッフと生徒は皆様への感謝の気持ちをご家庭で単元について話したり、学校で学んでいる難しい言葉についてご家族に教えたり、それらの言葉を母国語や他の言語でなんというのかを教え合ったりすることで表しています。ご家庭で母国語によるサポートや理解を示してくださることは学校での言語習得に大きな影響をもたらします。これにより生徒の自尊心や言語の発達、思考力などが育まれるのです。皆さんのサポートがどのような効果をもたらしているかの一例として何枚かの写真と、エレメンタリー生のコメントをご紹介します。これから学ぶ単元においても皆さんの継続的なサポートを是非、お願いいたします。

深い感謝とともに、

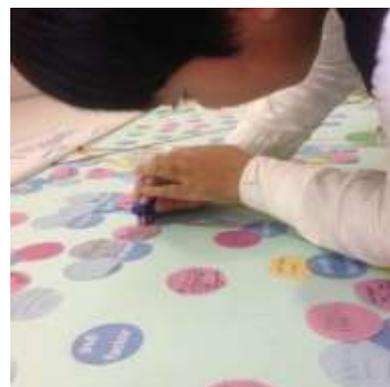
Elementary staff and students



11月の'Inquiry is Universal' 掲示板: 2017-18の単元の家庭学習をサポートするために既に3回変えられています。



K3の探究単元、Who we are: 私たちの選択と行動は自身の関係性に影響をあたえることがあります。学校や家庭で話合っているキーワードはこちらです - "feelings" (感情)



Kazuhiro (G5A)は "mangibang-bayan" - "移住" を意味するタガログ語をG5の単元 - Where we are in place and time: 人類の移住は挑戦や困難、様々な可能性を原因とし、またはそれらをもたらす - の掲示に追加しました。

'Inquiry is Universal' 掲示の好きな所は？

- “自分と同じ言葉話す人達が Inquiry is Universal の掲示板を見て、母国語でも単語を覚えられます。 (Aadya, G5B)
- “その言葉の意味がわからなくとも、別の言語でも書いてあるので、他の生徒や家の人でも理解できる。 (Dawon, G5A)
- “探究単元で使う単語が自分の母国語でも掲示してあるのがとても創造的だと思う。 (Feiru, G5B)
- “単語をいろいろな言語で掲示してあるので、学校全体が探求者になれる！ (Fumika, G5A)

どのようにして単元の用語を母国語でなんというのか調べましたか？

- “たいていお母さんに聞きますが、お母さんもわからない時はインターネットで調べます。 (Fumika, G5A)
- “両親に聞いたり、ウェブサイトで調べたりします。殆どの場合、リサーチのスキルを使います。 (Haruka N, G5B)
- “探求します！辞書で調べたり、インターネットで調べたり… (Dawon, G5A)

どのように学びの役に立っていますか？

- “語彙が増えています。単元を理解するのにも役立っています。 (Dawon, G5A)
- “いま勉強している単語を母国語でも覚えられます。 (Aadya, G5B)
- “もっと文化について調べ、単語の背景にある言語について理解できます。 (Haruka N, G5B)
- “単元に関わりのある形で他の言語を学べたので、とても興味深かったし、すぐに覚えられました。 (Donna, G5B)
- “中国語、韓国語、スコットランド語(スコッツ語)、タミル語、イタリア語、タガログ語、ヒンディーやその他多くの言語を学ぶのに役立ちました。 (Miki, G5A)
- “単元から多くを学べた！ (Fumika, G5A)

LEAPニュース



2018まであとわずか、と、いうことはLEAPの今学年度2回目の申し込みまでもあとわずか、ということです。

カレンダーに1点のみ変更があります。2学期のLEAPは当初予定されていたより一週間後ろ倒しで、**2018年1月22日(月)**に開始します。この変更に合わせてLEAP 最終日も1週間後ろ倒しので、5月26日(土)に開かれるFamily Day直前の**2018年5月25日(金)**となります。

LEAP 推薦メールは冬休み明けに送信されます。2学期のLEAP 申し込みは2018年1月に学校が再開されるまでオープンしません。申し込みオープンのお知らせは全てのご家庭にE-Communications でお知らせいたします。

もし、エレメンタリーオフィス前のLEAP掲示をご覧になっていらっしゃらないようでしたら、是非一度お越しください。ここにLEAPインストラクター、時には生徒が、これまでも、そしてこれからも様々な情報や写真を掲示します。

LEAPプログラムや授業についての詳細はKISTウェブサイトの「サポート」タブからアクセスできる[LEAPホームページ](#)をご覧ください。

ご質問がございましたら、LEAPコーディネーター、Amber Guarente leap@kist.ed.jp までお問い合わせください。

LEAP Team



CAニュース



私達Service委員は、今期より毎月Bellmark Dayを設定しました。Bellmarkを集めて学校の備品と交換します。ご協力宜しくお願いします。



KIPSニュース

地域社会との連携

現代社会において、地域社会のあり方が大きく変わってきています。核家族化も進み個々の家庭とコミュニティの分断が更に大きくなっていますが、先日の保育園のプログラム見直しにより地域社会との連携の教科が促進されることと思っています。

地域社会とのより強い関係構築のために、KIPSに読み聞かせをしてくださる方をお迎えすることが出来ました。ボランティアとしていらしてくださった方は子どもが大好きで、子供たちの成長を温かく見守ってくださっています。読み聞かせは月に一回行われ、子供たちもいつもとても楽しみにしています。この読み聞かせは深川図書館が調整をしてくださっているものです。この読み聞かせ訪問により、KIPSも地域社会とつながりを持ち、近隣住民の方とのつながりを深めることが出来ます。

また、保護者のお一人が近い将来、KIPSの子供たちに柔道を指導して下さることをお申し出くださいました。また、白百合女子大の学生さんによる伝統的な日本のお芝居の上演も予定されています。これは子供たちが楽しく日本の文化に触れ、学べるように、日本語の授業の一環として計画されました。様々な直接的文化体験を提供することで、子供たちが日々変化する環境や社会に適応できることになると考えています。



Yuuki Tanabe
Support Staff



子供たちの健康と安全を守っています

はじめまして。Minami Noseです。以前は病院の産婦人科で助産師として勤務していましたが、子どもの成長発達を実際の場面を通して学びたいと思い、8月末よりKIPSでスクールナースとして働くことになりました。

現在私がスクールナースとして主に行っていることの一つとして生徒の全身状態の確認があります。毎朝行っているため現在では多くの子どもたちが協力的に自らシャツをまくり上げてお腹を見せてくれるようになりました。その他に室内の温度・湿度が適切に保たれているか確認をすることや、子どもたちのお昼寝中にはKIPS内で子どもがよく触れるものの消毒を行うことで集団生活の中での感染予防に努めています。また、調理を担当するスタッフと使用する食材やメニュー内容を相談をしながらランチメニューの作成を行い、使用する食材の中のアレルギー表示対象品目は色を変えてMoodleに掲載することも担当しています。子どもたちの安全・健康を第一とした対応を心がけ、些細な事でもすぐ気づけるよう、毎日保育の場面に積極的に参加しクラスの先生との情報共有を大切にしています。

ほんの数年前、か弱い産声とともにこの世に生まれてきた赤ちゃんたちが、今では自らの足で立ち周囲の大人や友人の中でのびのびと成長していく姿には子どもらしい可愛らしさだけでなく、たくましさすら感じます。確実に一歩ずつ成長していく子どもたちと共に、私もスクールナースとして日々精進していきたいと思っています。



Minami Nose
Nurse



MYPニュース

MYP学習探究のための保護者説明会

9月以降、KISTではMYPの保護者向けにワークショップを2回開催しました。英語と、日本語の通訳で行われたワークショップはMYPの学習内容を実際に保護者が一部体験できるような形で提供されました。



MYP評価についての共同作業をされる新入生保護者の皆さん



Meng Ting (G11A) がG10保護者の皆さんにパーソナルプロジェクトについて共有

第1回はKISTに新しく転入学した生徒、またはMYPに進学したばかりの生徒の保護者を対象としたものでした。ここでは2つのテーマが取り上げられました。MYPでの評価方法と、セメスターレポートでの成績報告についてです。参加された保護者の皆さんはMYPの教員がどのように生徒の達成度を評価するかについての説明を受けました。また、Mr Cowe からはMYPの成績表の特徴についての説明がありました。

第2回はG10生徒の保護者を対象としたものでした。ここではG10のこれまでの学習の集大成となるパーソナルプロジェクトと、主な期待値についての説明がありました。昨年パーソナルプロジェクトを良好な成績で終了した生徒が直接、成功をおさめるために、どのようにこのプロジェクトに取り組むべきかについてご説明しました。

これら保護者説明会には多くの参加者があり、好評いただきました。参加者同士での交流も行われ、MYPIについての議論も盛んに行われました。また、生徒たちが日々どのような学習に取り組み、将来に備えているかについてもより良くご理解いただけたものと思っています。

Rob White

MYP Coordinator



Kevin (G11B)が保護者の皆さんにパーソナルプロジェクトの要件を説明中

SERVICE

It is wonderful to see our G6 Green Comets out to pick up litter in front of our school.



THANK YOU!

6A: Yusei, Kian, Homare, Muskaan, Caley Aki and Selin
6B: Nikol and Shaunak

for making our community a better place for all!



Our KIST Mission

*K. International School Tokyo provides academically motivated children from diverse cultural and social backgrounds with a high quality education in a safe and nurturing environment to become competent and moral individuals who make **meaningful contributions to our global community***

MYPでの学習

中心となる概念(Key concepts)はカリキュラム間のつながりを提供しています

セカンダリー生は毎週金曜日の午後最後の授業を、少し立ち止まって振り返るために使います。ここでは普段の授業で学習している内容には当てはめづらい学習要素にも触れることがあります。

1学期の間にG6からG8の生徒はMYPの中心となる概念(Key Concepts)を探求する機会を得ました。これらはMYPの様々な教科を横断する基本的な概念です。MYPの8つの教科それぞれがその分野での発達に必須とされる概念を明確にしています。

中心となる概念(Key Concepts)に関するアドバイザーで、生徒たちはこれら概念を使って教科間の関連付けを行う方法を学びました。MYPの概念中心の学習では個々の教科により大きな意味付けが行われます。コース内容、スキルの発達と概念の関連付けにより、学習の3次元モデルを提供するので

Rob White
MYP Coordinator



MYPの中心となる概念と、各教科における位置づけ



G6の生徒がMYPの中心となる概念の理解度を示しています。



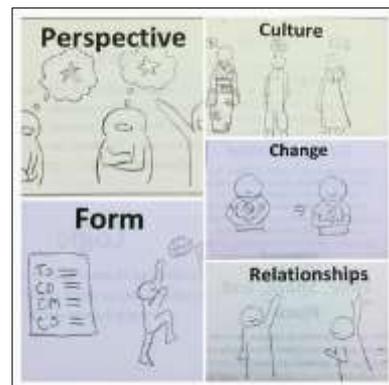
G6がMYP 8教科の関連性について議論中



G8が六角形を使って自身の理解度を証明中。黄色は16の中心となる概念を、青はMYPの8教科を表しています。



G8の男子学生はI&S(人文科学)の授業に多くの中心となる概念が用いられていることを発見



Eleina (G8B)はMYPの中心となる概念を表したイラストを作成

リマインダー
算数・数学診断テスト
GRADES 4-5...
2018年1月12日
GRADES 6-10...
2018年1月19日

模擬国連会議

ハイ・スクール会議

今年も刺激的な模擬国連会議がKISTで開催されました。11月18日、あいにくの雨模様の中、The British School in Tokyo、St. Mary's International School、玉川アカデミー、Yokohama International Schoolそして洗足学園から昨年を超える122名の参加者を迎えることが出来ました。

たった数時間の間に参加者は2つの議題について熱心に議論し、解決法を模索しました。一つ目は「無法国家や民族による核兵器取得の防止」で、2つ目は「火星の定住植民地計画達成を目指した国際的な協力と技術共有の促進」でした。多くの生徒が自身の与えられた役割である、各国代表者の立場から啓発的な議論を展開しました。

会議の前に、代表者たちはゲストスピーカーのMs Momoko Iseに国連での経験について質問させて頂く機会を持つことが出来ました。Ms Iseは都内にある国連大学の最初の総長に任命され、その後、国連の人事局長、財団法人女性のためのアジア平和国民基金の理事を務められました。

毎年恒例のKIST MUN Scrimmageですが、今年は初めての参加者も多く、議論で苦戦する様子も見受けられました。しかし、これら生徒たちも他校の生徒との交流や、MUNの形式で世界的な問題について議論することを通して多くを吸収し、学んでいることが見て取れました。

MUN



前ページの続き

ミドル・スクール会議

ミドルスクールを対象とした第2回、KIST模擬国連が、ハイスクールの会議と同じ2017年11月18日の土曜日に開催されました。KISTを含む5校の生徒が参加し、2部屋に分かれて会議を行いました。一つの部屋の議長を Ms Evelyn が務め、もう一方の部屋の議長は洗足学園の生徒2名が務めました。議題は:「気候の変動が沿岸と人々の健康に与える影響」でした。

この部門(ミドルスクール)の KIST MUN メンバーはドイツ、中国、フィジー、日本を代表して会議に臨みました。会議は以前国連に勤務されていた Ms Momoyo Ise のスピーチから始まりました。次に、生徒たちは非公式に問題解決方法を探る、ロビー活動を行いました。これは昼休みまで続けられ、昼食後は公式の会議の場での議論が交わされました。ここで挙げ

られた解決策は総会にかけられ、投票が行われました。その後閉会式が行われ、イベントは終了となりました。

今年も模擬国連は大成功に終わりました。生徒たちは様々なスキルを向上させるとともに、一日を楽しむことが出来ました。クラブを通してこの日のための準備をサポートしてくださった Ms Evelyn に感謝します。そして、また来年も代表者の皆さんに会えることを楽しみにしています！



これが2回目の参加ですが、とても多くのことを学びました。私は同じクラブのメンバー3人と一緒に、洗足学園の生徒たちが議長を務めた総会に参加しました。ここでの会議はクラブで経験したものとはかなり違って、もっと正式でかしまった感じがしました。昼休みに入るのにさえ、動議を起し、それが支持され、可決されなくてはなりませんでした！私は友人たちとドイツ代表となりました。実は完全に準備が出来ていたとは言えなかったことを認めざるを得ません！一つ得た大きな教訓は、リサーチを直前まで先送りにしないということです！

Mehak (G8A)

MUNは忘れられない思い出となる貴重な経験でした。模擬国連会議の素晴らしいところはこれまで会ったことのない人たちとコミュニケーションが取れるということです。違う学校からの参加者と仲良くなる機会もあります。MUNは楽しいだけでなく、多くのスキルを身につける役にも立ちます。この会議への参加を通してリサーチスキルや、文章作成、正しいディベート能力も身につけることが出来ます。更に広く深い思考力も身につけ、多くに異なる意見に触れることも出来ます。MUNはとても有意義な活動です。

Saanvi (G7B)

今年は私にとって初めてのMUN参加でした。最初は、リサーチやディベートに全て対応できるのか心配でしたが、実際に参加してみると、他校や他の国の代表者とのディベートに「勝つ」ことが目的ではないことに気づきました。パートナーと他国の代表の前で話した時、コミュニケーションや、スピーチスキルを向上させていると気づきました。また、今回が初めての参加でしたが、パートナーや他の参加者がとても良くサポートしてくれました！本当に素晴らしい体験でした！

Hanna (G8B)

サントリーホールでの音楽校外学習

G6B と G7B の音楽単元の一環として、11月8日にサントリーホールで開かれたボストン交響楽団演奏会に行きました。指揮者が各曲目の紹介をすることや、ステージの上で演奏される多くの楽器を見られたことが興味深かったです。コンサート後の生徒たちのコメントです。

Makiko Duran
MYP Music
Teacher



Arnav (G6B)

「指揮者は楽団員が自分のパートを正しく演奏していることを確かめながら、素晴らしい指揮で皆をリードしています。」

Elena (G7B)

「音の強弱がとてもはっきりしていて、良かった。オーケストラは大きな音を力強く、静かな部分は柔らかく演奏していた。」

Mariko (G7B)

「演奏、特にフルートとハーブの部分がとても美しかったです。ハーブの音色がとても心地よかったです。」



リオから東京へ

私はKISTの10年生、Ligiaです。私はリオデジャネイロ出身のブラジル人で、父の仕事の都合で来日しました。私たち姉妹は日本語が話せないのに、母が英語で学習を続けられるようにと良い実績のあるインターナショナルスクールを探してくれました。

面接と試験に合格した後で、KISTは私にFuture Horizons奨学金を提供してくださいました。これにより、日本に来て、さらに学習を極めることができました。

1月にロンドンのインターナショナルスクールで学ぶ機会があったのですが、そこでも、ブラジルとの学校の違いを学ぶことができました。

KISTでのカリキュラムはこれまでよりももっと奥が深く、努力を要するものでした。また、生徒DP教科を選択できるのが今から楽しみです。たちをサポートしようとする先生方の好意と、放課後のクラブ活動がとても好きです。

私に将来の目標を達成する機会を与えてくださったKISTとMr & Ms Komaki、そしてMr Jonesに感謝します。

Ligia (G10A)



リオデジャネイロのRodrigo de Freitas Lagoonで寛ぐ

ゴミの処理

2017年、11月6日(月曜日)に G12 のESS と Geographyの生徒たちは有明にあるごみ焼却施設を訪問しました。この施設は家庭などから出たゴミを焼却処分し、嵩を減らすことで現在の最終埋立地をより長く使用できるように配慮しています。また、焼却の過程で出る熱エネルギーを電力に変換したり、臨海副都心や周辺施設へのスチームやお湯の供給などに用いています。



G12AのAskaのコメントです。

焼却施設への訪問は、これまで考えたこともなかったことに目を開ける機会となりました。毎日無意識に行っているゴミを捨てる行為の後で何が行われているかを知るとは、地球市民としての私たちの大切な責任だと思います。この施設で、必ずしも最良の環境でない中、コミュニティのために働いてくださっている職員の方々に尊敬し、感謝を捧げます。



今回の訪問では焼却過程や施設によるゴミの削減の効果について説明していただきました。施設内の見学も行い、特に800度の高温でゴミを焼却する 'Waste Hopper' にゴミを移す時に使われる巨大「ゴミクレーン」には驚かされました。また、訪問中は施設の担当者の方に快く質問に答えて頂き、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。



Elinaのデザインが選ばれました

今年のArtscapelogコンテストの優勝者はElina (G7A)です。おめでとうございます！



Elinaのデザインは他のインターナショナルスクール生も提出したものの中で最も優秀であると判断されました。

Artscapelogは毎年開催される関東圏のG5～G12までのインターナショナルスクール生が参加する美術作品展示会です。次の開催は2018年の2月で、Elinaのデザインはこのイベントの全ての宣材に使用されます。



Elina、おめでとう！

G7 キャンプの振り返り

11月16日と17日にKISTの7年生は静岡県での宿泊合宿に参加しました。今回の思い出深い合宿に参加した生徒の感想をご覧ください！



Sri (G7A)

G7 キャンプで過ごした時間はとにかく素晴らしかったです！！宿舎は富士山の麓のYMCAロッジでした。木の伐採や農場訪問など、たくさんの活動に参加しました。

森のなかでは5つのグループに分けられました。各グループは丸太を運んだり、木を切ったり、切った木を丸太にして一箇所にまとめたりという作業を一通り体験しました。また、グループで選んだ木がいつの日か直径3メートルを超えることを祈りました。私たち全員にとって一生に一度の貴重な体験で、とても楽しみました。活動の後のお風呂タイムは汗をかいて疲れていた多くの人たちに歓迎されました。それから夕食を摂り、NPO団体のプロモーションビデオを作成しました。

ロッジの部屋はとても居心地が良く、皆とても良く眠れました。二階(ロフト)がついた部屋もありました。次の日は富士山と日の出の美しい光景を鑑賞した後、朝食を摂りました。そしてびっくりするくらいロッジに近かったまかいの牧場で一時間半の自由時間を過ごしました。農場内を散策して動物と触れ合ったり、ろうそくやチーズ作りなどを楽しんだ後はお待ちかねのバーベキューランチでした！皆で肉を焼いたり、うどんを食べたりと、とても楽しみながらいただきました。大満足のお昼の後は学校までの長い帰路につき、夕方5時半頃到着しました。

このキャンプは私たち全てにとって素晴らしい体験で、お互いよく知り合うことが出来、チームワークを培うことが出来ました。この楽しくなるイベントを企画してくださった先生とスタッフの皆さん感謝します。

Jessie (G7B)

G7 キャンプは思い出に残る経験でした。とても楽しかったのですが、疲れました。学校の勉強だけでなく、友だちと楽しい時間を過ごすことが出来ました。

Shin (G7B)

木を伐採するというのはめったに体験できることではありません。なので、今回その機会を与えていただいたことを幸運に思います。また、伐採前もNPOの講師の方からもたくさんのことを学びました。



あと少し歩くことの利点

Chelsea International EducationのDr Michelleからのアドバイス

2マイル歩くことが出来るのに、何故1マイルでやめてしまうのですか？教育界ではこれはある2つのグループを表します。必要最低限のことだけして終わる人たちと、更に上に行くためにあと一歩踏み出す人たちです。あなたはどちらのグループでしょうか？



教育において次の一歩を踏み出す前に、以下、あと少し歩くことの利点について考えてみて下さい。

- 同じ大学に出願する何千もの学生の中で、あと一歩踏み出すあなたの努力が際立ちます。
- あなたは自信のある積極的な人として目され、新しい可能性が開けるかもしれません。
- あと一歩を踏み出す意欲のある人達は後に続く人たちのためにより高い目標を掲げることが出来ます。
- たいていにおいて、他の人より優れた人が報いをうけます。あなた自身が成功することで報われるだけでなく、先生や経営陣(仕事場での上司や役員)からも一目置かれるでしょう。
- 自分自身を誇れることほどよい気持ちにしてくれることは中々ありません。達成感、満足感、そして成功を喜ぶ気持ちを享受できます。是非、自分を褒めてあげて下さい。

最高の利点は今いるところより上に行こうとする意思を示した時により良いパフォーマンスを行えるということです。そして、多くの場合、質より量を求めるものなのです。

普通であることではなく、特別になることを選択しましょう！

KISTでのスタッフ研修



KISTカレンダーには9月16日がスタッフ研修日として記載されています。KISTスタッフにとって、この日は他のスタッフと教育実践について共有できる日となりました。

14名のスタッフが以下のトピックのプレゼンターとワークショップに貢献しました。

- アクションリサーチの計画とレポートの書き方
- エレメンタリー及びミドルスクールでの社会性発達のサポート
- 個別読書の記録
- セカンダリースクールの評価の計画法
- 読書から分析へ
- 教室での思考についての指導案
- テクノロジーが授業や学習の質をどのように向上させるか
- PYPでのアクション・行動
- 自己評価ツール
- セカンダリースクール授業でのELSの導入・融合



このまたとない機会に貢献してくれたすべての人に感謝します！

運動部最新情報

11月18日にKISTで行われたISTAATーナメントをもって、バレーボールシーズンが終わりました。KIST COMETS U-18 バレーボールチームは男女ともに善戦したにもかかわらず、準決勝で敗退してしまいました。男女チームの写真をいくつか共有します。これらのうち多くは Yuuki (G11A) によるものです。



サッカーの成功

KIST Comets エレメンタリーサッカークラブが第2位に



世界中に人々を強く結びつけるものがあります、それはサッカー愛です！今年度、KISTの素晴らしい生徒たちを指導する事が出来たことを光栄に思っています。

今回のクラブサイクルはサッカークラブにとって大きな変革の時でした。今回から4色制を導入し、各色チームにキャプテンを配置しました。キャプテンはチームのコーチ役となったり、週毎に様々な責任を負ったり、下級生のお手本となったりします。

また、アシスタントコーチとして6年生のボランティアを迎えることができたのも幸運でした。彼等は毎週、楽しい活動を計画する事に大いに貢献してくれました。更に、アシスタントコーチの一人、Daiki (G6B)はつい先日行われたBritish School in TokyoでのISTAATーナメントで5年生を第2位に導いてくれました！今年度のCometsの素晴らしい達成時を誇りに思いつつ祝いたいと思います！

Axel Norwood
Coach



KPASS 演劇フェスティバル



KISTセカンダリー生は今秋もKPASS演劇フェスティバルに積極的に参加しました。9月23日(土曜日)に12名のKPASS High School 劇フェスティバル参加のために横浜インターナショナルスクールに向かいました。この毎年恒例のイベントでは生徒たちは他校生との小グループに別れプロのディレクターや役者の指導の元で、短い演劇パフォーマンスを行います。ブレインストーミング、プランニング、脚本作成、振り付け、リハーサルから最終的なパフォーマンスまでたった6時間で行わなければならないので、かなり厳しい時間制限の中での活動となりました。



今年の参加者はThilo (G9B)、Michiko (G9B)、Ishaan (G9B)、Riju (G9B)、Kiho (G9B)、Caterina (G9B)、Michiru (G10A)、Hinako (G10A)、Emiri (G11B)、Chae Hyun (G11B)、Ryu (G11A)、Igor (G11B)でした。パフォーマンスは多岐にわたりましたが、全て今年のテーマ: 'Lost'に基づいたものでした。プロット中心のもの、抽象的なもの、観客を巻き込んだ非常に印象に残る寸劇、ダンス、人形劇など本当に多様性のある作品が並びました。

これに続き、13名の中等部生が11月13日にBritish School主催のKPASS Middle School 演劇フェスティバルに参加するために国立オリンピック記念少年総合センターに向かいました。高等部フェスティバル同様、関東圏のインターナショナルスクールから1日の集中ワークショップに多くの参加者がありました。数時間のうちに、他校生とのグループに別れた参加者はインストラクターの指導の元、5分間の演劇発表の準備を行いました。今年はAki (G6A)、Rintaro (G6B)、Haku (G7A)、Ketan (G7B)、Tia (G7B) と Lilike (G8A) がKIST代表として参加しました。

今年のテーマ: 'Freedom' をもとに、どちらかと言うと自由がない状況を反映させたネガティブで暗く、抑圧的な作品が多く発表されました、また作品の多くは音楽や体の動きを伴うものでした。

中・高等部生ともに地域の演劇フェスティバルへの積極的な参加という伝統が今年も続いたことを嬉しく思います。

Steven Otis

Secondary Subject Area Coordinator—English



2017年度学校説明会

10月14日の土曜日に恒例の学校説明会を開催しました。今年は最高記録となる270名のご家族をお迎えしました。参加されたご家族は学校やカリキュラムについての説明を受け、また、学校ツアーにも参加されました。

KIST在校生の保護者の方でご兄弟・ご姉妹の4月または8月入学を希望される場合は、**2018年1月8日**までに願書をご提出下さい。この日程を過ぎても願書の受付は行いますが、クラス定員が埋まってしまっている場合があることをご了承下さい。

出願についての詳細は以下リンクからアクセスできる **Admissions Handbook** をご確認ください。

<http://www.kist.ed.jp/node/41>

Craig Larsen

Director of Admissions and Personnel





2018 KIST HFH TEAM FUNDRAISER UPDATES

HABITAT FOR HUMANITYとは?

Habitat for Humanity (HFH) は経済的な理由やその他の事情で自身で住居を確保できない貧困層の人々への住居の提供をサポートする組織です。

どのような活動が行われるのか?

2018年度 KIST HFH チームのメンバーは2018年6月にベトナムへ行き、住居を必要としている人のために家を建設します。この活動を実現させ、参加費の一部を賄うため、一年を通して様々な募金活動を行います。

K.20での活動

2017年10月28日にKIST HFH チームはKISTの20周年記念イベント、“K.20 Celebration”でsponge toss(スポンジ投げ)、スーパーボールとヨーヨーすくい3つのブースを運営しました。Sponge tossでは、数名の先生が活動をサポートするために「的」としてボランティア参加してくださいましたこのブースは先生方と生徒の交流が行えると好評でした。スーパーボールすくいは景品のボールを求める小さな子供たちで盛況でした。これらのブースはHFHだけでなく、今回、アクティビティの数を増やし、コミュニティメンバーが更に交流できる機会を増やしてくれたKISTコミュニティ全体の協力があって運営が可能となり、成功したと思っています。この活動を通して集まった金額は**¥202,250**でした。



学校説明会での活動

2017年10月14日の学校説明会では、2018年度 KIST HFH チームの数名が紅茶やコーヒーの販売を行いました。説明会の参加者が校内で飲み物を買えると、こちらも好評でした。この活動の利益は**39,369円**でした。

ACミランアカデミーチャリティーサッカーイベントでの活動

上記はACミランアカデミーチャリティーサッカーイベントで撮ったものです。2017年11月19日にACミランアカデミーは親切にもHFHに賛同し、チャリティーイベントを企画してくださいました。資金調達にご協力くださっただけでなく、すべての年齢層の参加者が「ACミランメソッド」を通してサッカー技術を向上させる機会を下さったACミランの皆様に感謝します。2018年度 KIST HFHチームはこのイベントでコーヒーの販売、受付・登録、キックターゲットブースの運営を行いました。このイベントの収益は**106,147円**でした。同様のイベントが2018年春にも開催されますので、皆様に又お会い出来ますことを楽しみにしています!



クラブ活動のハイライト



グリークラブ (エレメンタリー)

歌うことは心と体に良い効果をもたらすと科学的にも実証されていることをご存知でしたか？歌うことが心だけでなく、身体にも良い効果をもたらすということは研究の結果からも明らかです。有酸素運動であることから、たとえ一人であっても、歌うことで血中の酸素濃度が増加し、心臓を健康に保ちます。更には免疫を強化し、姿勢を良く保ち、良質の睡眠をもたらし、注意力を高め、(エンドルフィンという「快樂」物質の分泌によって) ストレスを軽減し、抗鬱効果などももたらします。

グループで歌うことによる社会的効果もあります！例えば、コミュニケーション能力を磨くことができます。合唱に参加する人たちは常に協力しながら歌っており、息すら合わせるよう努力しています。私達はとても強い絆で結ばれているのです！研究によると、合唱は友情や自信を高め、コミュニティ内でのコミュニケーション力を向上させ、人生を楽しむことを教えてくれることから、参加している人たちは人生に対する満足感が高いといわれています。合唱の素晴らしいところは年齢に関わらず、だれでも参加できることです！

現在、グリークラブには異なる学年の17名の生徒が歌ったり、歌に合わせて踊ったりと、とにかく楽しく参加しています。クラブでは、まず心身を整え、喉を緩めるためのウォームアップを行います。それから生徒たち、または私が選んだ曲を歌ったり、歌に合わせて踊ったりを何度も楽しみます！練習の過程や進歩を楽しむというのはとても満たされることです。練習をしていると時がとて速く過ぎてしまい、練習時間が足りないとすら感じてしまいます。最近Winter Concertで歌う歌を練習中です。コンサートでの演目については長い時間と労力をかけて準備してきましたので、皆さんにも是非楽しんでいただきたいです。エレメンタリーの勇気と才能に溢れた歌手たち、万歳！

Aya Kurosaki
Club Supervisor



生徒オーケストラ (セカンダリー)

今年度の始めからオーケストラは10月のK.20祝賀イベントなど、学校コミュニティの活動に積極的に参加してきました。オーケストラには多くの才能豊かな生徒が在籍しており、そのうち幾人かは学校行事でソロ演奏を披露しています。

11月後半には錦糸町のTriphony Hallでの日本フィルの演奏会にご招待いただきました。最初の演目はロシアのピアニストによるチャイコフスキーピアノ協奏曲第1番でした。全員この曲の前奏には馴染みがあり、これを聞きながら、「オーケストラで最初に協奏曲の演奏者に選ばれるのは誰だろう」と考えていました。

皆様のオーケストラに対するあたたかいご支援に感謝いたします。KISTコミュニティの皆様からはバイオリン、ビオラ、チェロ、クラリネット、フルート、そしてティンパニをご寄付いただきました。また、フリードレスデー、ベルマークデー、ACミランサッカーイベントなどの寄付活動でも追加の学期を購入するための資金調達を行いました。

皆様のご支援に感謝いたします。また、現在も引き続き楽器の寄付を募集しておりますので、詳細はMrs Duranにお問い合わせ下さい。

Makiko Duran
Orchestra Conductor



図書室ニュース



今学年度はLMC司書のMs Erika と私 Mr Tim にとって、生徒の皆さんの学習をサポートするための新しい事柄を数多く計画・導入するという大変ワクワクする一年になりました。

Destiny Discover – エレメンタリーとセカンダリーのための新機能

KIST図書のための新しい検索エンジンです。KISTの資料・蔵書、オンライン資料全てを網羅します。



新しい機能を試すために、是非、KISTウェブサイトをご覧ください。KISTメールアドレスとパスワードでログインできます。Destiny Discover はKISTウェブサイト、またはこちらのリンクから閲覧可能です: <http://bit.ly/2mYQG4k>

Destiny Discover Apps for iPhone, e-reader, Android またはタブレットからも閲覧、予約、リスト作成などが可能です。校内では学校承認・登録されたパソコンでのみアクセスするようお願いします！

LMC メインエリア – 新しいフィクションのレイアウト

昨年度末のアンケートと英語科の意見を参考に、Library Elvesの手を借りて、LMCの本をより探しやすくするためにレイアウトを変更しました。

- **拡大しました – グラフィック・ノベルズ**
- **新設 – 翻訳作品。** 遠藤周作、岸本斉史、村上春樹などの日本作品の翻訳版。
- **新設 – 世界文学。** 特にG9の生徒向けの世界文学。
- **新設 – 古典文学。** ジェーン・オースティン、D.H.ローレンス、アーネスト・ヘミングウェイなど。
- **改善 – シリーズ物の表示。** David Walliams、Marissa Meyer や J.K. Rowlingのシリーズ作品をわかりやすく表示。
- **新設 – ジャンルごとの表示。** 生徒の選択が用意になるよう、ジャンルごとの表示を行います。



LMC 第2室 – 新しい参考資料

セカンダリーの上級生を念頭に、資料を見つけやすいように配置を変更しました。

- **新設 – Extended Essay用の推薦図書(小説)**
- **新設 – ヤング・アダルト** ジャンル専用のセクション
- **学習ガイド** – LMCの一箇所にまとめてわかりやすくなりました



LMC 第2室 – 後ろの壁全体が生徒用の参考資料になりました

新設 – 蔵書

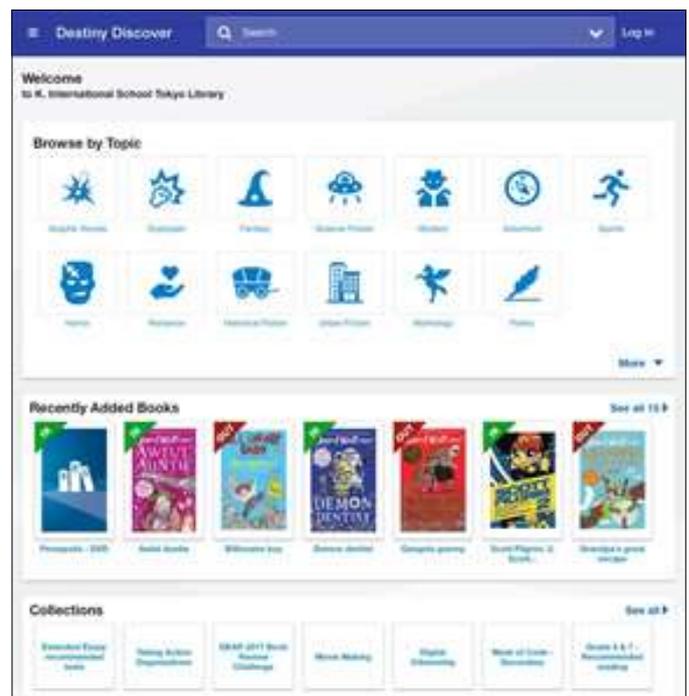
LMC全てのフィクションが Destiny Discover Collectionsで閲覧できます。一例として、G6/G7対象の推薦書を見てみて下さい。カバーを確認し、内容紹介を読んでみて下さい。また、システムから予約をすると、LMCから貸出が出来ます。



新しい検索端末3台でDestiny Discoverを使う生徒たち

蔵書には以下があります。

- 古典小説 (90+)
- Extended Essay 推奨テキスト (20+)
- G6・G7推奨図書 (50+)
- 日本作品の英訳版 (40+)



Destiny Discover ホームページ

前ページの続き

改善 - ノンフィクション作品コーナー

LMCは今回、生徒たちがより本を見つけやすくなるよう、改善するにあたって、熱心に助言・お手伝い下さった英語科に感謝しています。

新たに以下の分野のコーナーが出来ました。

- 詩歌
- 演劇・戯曲
- シェイクスピア
- 短編作品

上記に関して、またはオンライン資料に関して何か質問がある場合、私、もしくは図書チームにお問い合わせ下さい。

Thank you.

Mr Tim

timothy.smith@kist.ed.jp
library@kist.ed.jp

Library elves

LMCで本を借りようと
思ったけれど、どの本にすればいいか、わからなかったことはありませんか？読みたい本を見つけるのに手間取ったことはありませんか？心配ありません。Library Elvesがいつでも、お手伝いします！



Library Elf Junyung (G7A)が日本語のノンフィクションの整理をしている所

Library Elvesの役割は:

- 司書や司書助手の本の整理を手伝う
- クラスメイトや生徒たち日本を推薦する
- LMCが生徒にとってよりよい環境になるよう、手助けをする

Ms Erika



Library Elvesが本のディスプレイを作成中

DEAR

11月中に毎回20分、すべての生徒とスタッフがDrop Everything And Read(すべてを置いて読書をしよう)に参加しました。エレメンタリーとセカンダリーの生徒とスタッフが読んでいた本に興味がある人はKIST図書ブログのKISTvショートビデオを是非チェックして下さい。



DEAR 2017



Mr TimがDEARでExtended Essay推奨図書、Erich RemarqueのAll Quiet on the Western Frontを読んでいる所

<http://bit.ly/2z5ShXj>

DEARコスチュームパレード

毎年恒例のDrop Everything And Read (DEAR) プログラムにご参加いただき、ありがとうございました。K1の生徒たちからMr & Mrs Komakiまで、学校全体がKISTでの読書文化促進のための活動に参加しました。DEARプログラムの集大成 - DEARコスチュームパレード - は12月1日金曜日に行われ、大好評でした。今年は多くの生徒達がコスチュームでパレードに参加しました！皆さんの熱意に感謝します。以下はイベントの写真です。

Ms Leslie



Staff 10!

今号の Staff 10! では
2013年4月にエレメンタ
リースクールの
Administrative
Assistant としてKISTの
一員となり、Mr
Yoshihara と Mr
Bradley を近くで支えて
いる **Reina Sekiguchi** をご紹介します。



Ms Sekiguchi がフィリピン、シアラガオ島の
ビーチで読書を楽しんでいるところ

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私は東京都世田谷区で生まれ育ちました。世田谷はとても美しい公園や美味しいレストランが大好きなふたつのもので、囲まれた閑静な住宅地です。また、人生の多くの時間をオーストラリアのメルボルンで過ごしたため、第二の故郷といえるかもしれません。メルボルンは最も住みやすい都市として7回も選ばれている場所です！

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

フィリピンのシアラガオ島でしょうか。シアラガオはフィリピンの南東に位置し、絵葉書にあるような美しい白い砂浜を有しています。シアラガオの周囲には多くの無人島があり、船で行き来できます。人の手が殆ど入っていない場所を見る事ができるのは何とも言えない経験です。このような場所を見ると、地球という星を守ろうという責任感が湧き上がってきます。

3) チャンスが あったら 会って みたい 人は 誰 ですか？ その理由を教えてください。

一度も会ったことのない祖父です。母はよく彼が家族の中での祖父・家長という役割を超えて恵まれないご家族に医療を提供していたかについて教えてくださいました。祖父は患者さんの枕の下にお金を忍ばせたりもしていたそうです…！祖父のことを思うと、人類愛や利他主義について考えずにはいられません。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

私は二重関節なので、足を簡単に不思議な角度に曲げることが出来ます。この特技のおかげで、いつもハードル競技では一位でした！！

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

私はいつも家で多くの動物に囲まれて育ってきました。巨大な亀(80cm位ありました！)、ヘビ、アリゲーター、ムササビ、オウムを含む15匹のペットがいたこともあります！だから、今でも動物と自然がこんなに好きなのかもしれません！



「私の親しい友人の中にはKISTで知り合った人たちもいます」

6) あなたにとって一番の宝物は？

家族と友人たちです。どちらもかけがえのないものです。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

‘Caring’(思いやりのある人)でしょうか。人を思いやり、世話をして喜んでもらえるのが純粋に好きなのだと思います ☺

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

もっとよく出来たはず、と思うこともありますが、自身の欠点や間違いを受容することが大切だと思うので、何も変えたとは思いません。それに、せつかくこれまでの人生で多くの素晴らしい人達にも会うことが出来たのですから！

9) 自分を高めるために今やっていることは？

素晴らしい教師になるために勉強中です！ ☺

10) ファンに一言お願いします。

何事も深刻に考えすぎないこと！そして時間を巻き戻すことは出来ないなので、人生のすべての瞬間を最大限感謝しながら楽しむことです。

オフィスアップデート

冬用の小物類

寒くなるにしたがい、防寒用の帽子や手袋、マフラー、ネックウォーマーなどが活躍するようになります。

冬の間、学校に身に着けてくる防寒具などは全てブランドロゴが表側になく、縞などの模様のない黒一色のものでなければなりません。お子さんが現在黒以外のものを身に着けている場合、必ず黒いものをご用意下さい。冬用の防寒具は学校受付でも購入いただけます。



ニット帽 ¥500



マフラー ¥500



手袋 ¥206

学費のお支払について

2017年度(2017-2018 school year)学費の第3回目お支払期限は**12月15日**です。お支払いがお済みでない場合は、支払期限までにお問い合わせいたします。

2018年1月からのスクールランチオーダーの変更について

1月からのスクールランチオーダーの曜日変更・キャンセルの申し込み受付は、**12月15日**までとなっています。曜日変更・キャンセルをご希望の方は、必ずフォームを提出してください。申し込み締め切り後の受付はいたしませんのでご了承ください。

フォームはウェブサイトにご覧いただけます。

<http://www.kist.ed.jp/files/pdf/enrolment/School%20Lunch%20Order%20Form.pdf>

批評分—物まね鳥を殺すのか、それともアオカケスを癒やすのか?

English Paper 2: 現代政治的内容

毎年、Language and Literature (言語と文学) の Paper 2 試験の準備のためにG12の生徒たちは米国の人種差別と非寛容をテーマにした古典小説、*To Kill a Mockingbird* (邦題: アラバマ物語) で描写される暴力的文化について学習します。そして毎年、暴力的(拳で解決策を求める)文化が以下に存続しているかを知らしめる記事を目にします—そしてその状況はこの小説が発表された1960年以降、悪化しているようにさえ思えます。先日のアジア歴訪時に、トランプ米大統領がテキサス州教会銃乱射事件について、「銃規制の問題ではない」と発言していますが、これに対して私は同意と反対の両方の気持ちを抱いています。社会における銃の蔓延と容易な入手方法は米国とその他、日本を含む銃の脅威について述べる必要のない国々との大きな違いです。しかし、同時に銃の所持が認められていてもこのような大量虐殺が頻繁に起こるわけではない国々も存在します。そのため、トランプ大統領の発言に部分的に同意します。ただし、彼の意図や考え方にはではなく、純粋に文学的・言語的な面において、銃は建国以来、米国の文化の一部で有り続けました。しかし、もちろん、日曜のミサの銃乱射はそうではありません。そして、このような、ある意味文化・文明病が引き起こした事件の原因として精神障害をスケープゴートにするのも危険です。G12の言語と文学の学習で取り扱った *Mockingbird* が表しているように、

人間の行動はほぼ、その帰属する文化や状況によって決定するものであると考えます。簡単にまとめるなら、暴力という病は文化的な疾患とも呼ぶべきものであり、厳密には精神的、個人的なものではないと考えます。私は Language and Literature (言語と文学) の指導を通してこの結論に至りました。

このような殺人事件・衝動を分析し、制御しようとするのは、この種の精神疾患の要因となる状況を認識し、これに対応できない限り、愚か者の所業と言えるでしょう。社会が殺人・殺人者を生み出すのなら、社会がこれに対応しなければなりません。限りない絶望と怒りに満ち、冷酷さと暴力で自らを主張しようとする人間のいる社会は、愛や自己犠牲のある協調的な人間関係や意義深い探究よりも力やエゴに重きを置いていると判断せざるを得ません。この中で、銃は自身の限界や偉大さを追求するために戦い、死ぬことすら厭わない孤独な魂の集まりであるアメリカのエゴを象徴しています。もちろんこれはアメリカという国も持つ性質の全てではありません。けれど、世界に何度も何度も発信され、国を冒している病の一つであることは明らかです。そして加害者を罰し、取り除こうと誓う度に返って広がりを見せているような気さえします。米国が与えられた不名誉な称号に対してどの程度の正当な主張があるのかを問うには更なるリサーチと議論が必要ですが、この数十年間、世界を震撼させたテロによる暴力と、米国民の中に存在する狂気や暴力には、悲しいことに対称性があるようなのです。世界的規模で、悲しい事実は厳然と存在します: 犯人・加害者は私達自身の息子、兄弟、夫、そして隣人なのです。彼等は私たち自身の行動、伝統、組織、神話を元に書かれた人間ドラマの役者なのです。世界市民として、私自身もこの暴力の一端

を担っています。私自身も自らの行動、言葉、そして投票によって自らの意思を示さなければなりません。私も、不安や不信、脅威や絶望に襲われた際にすぐに暴力に訴えてしまうこの病を癒やすために力を尽くさなければなりません。

直近の Paper 2 の模擬テストで、G12の Sara S. は「*To Kill a Mockingbird* で Harper Lee は南北戦争での敗北以来他の州から差別的で非寛容であると目されるまできた(米国)南部の不名誉な評判からの脱却を目指した」と論じました。これは素晴らしい意見です。しかし、Sara自身が後に述べているように、文中で「[狂犬] Tim Johnson 殺害と、Bob Ewell の死が祝われた」ように、に暴力が行われているのです。事実、*Mockingbird* では大多数の問題を暴力によって解決しています: Tim Johnson の射殺、子供同士の拳での諍い、残酷な人種差別主義者の老人 Mrs Dubose の庭の花の首を切る、Robinson の背中を17回に亘って銃で撃つ、そして最終的には残忍な Ewell を刺殺する。英雄的な主人公、Atticus Finch が多くの場面で対話や妥協・融和、真の意味でのコミュニティを実現するための自制を象徴していますが、彼自身も Ewell のような悪人と向き合う際は以下のような言葉を使って、拒絶の姿勢を示します。なんの役にも立たず、必要とあれば、力づくで排除されるべき「ゴミ」(実際、作品の中で、比喩的に狂犬の肩間を狙って射殺しています)。

1930年代の米国南部は地理的歴史的にも僻地として捉えられていましたが、G12の生徒たちはすぐに社会の抱える問題や困難はどの年代にも共通であるということにすぐ理解しました。次の Paper 2 演習2人の登場人物が個人の利益と、公益の間で翻弄され、戦わざるを得なくなる、古代ギリシャ悲劇、アンティゴネーです。人が文化や社会という集合体の中で個人としての自分をどのように捉えているのかという問題がこの単元の中心にあります。そしてこれまで学習してきた暴力が社会とその安全にどのような脅威となるのかということ突き詰めることができるでしょう。

社会的に意味のある場所: 学校、教会、ショッピングモール、文化的集会所、などで多くのテロ行為が行われるのは偶然では無いのでしょうか。無差別銃撃やテロ行為は自殺行為と同時に政治的・社会的殺戮行為(policide)自身を害するとともに、コミュニティを意味する古代ギリシャ語 polis を破壊する衝動、でもあるのです。この policide では絶望と自棄の念に駆られた個人は、たとえ、その伝えるメッセージがただ苦い思いや怒り、絶望であっても、多くの人に向けて何かを発信することにつかの間の力を得たように感じるのでしょうか。たいていにおいて、このような絶望に満ちた個人は自身の人生を無価値なものに感じているため、人間全体の命の価値を軽んずる傾向にあります。そして、彼等はその責任を個人に課し、殺害するのではなく、彼等自身の人生に価値を与えられなかったと、勝手に目にする社会的施設や象徴に責任をなすりつけるのです。彼等はしばしば、切羽詰まった、そして明らかに我儘な言葉を言い訳にします。社会は自分に何もしてくれなかった、と。

このような絶望感の中、銃や爆弾はこのような害意を更に増幅させる最悪の燃料となります。争いのための武器の規制は気高く、公正な試みです。殺人者を罰することは必要であり、簡単に暴力による解決を求める人達の行為を妨げる効果があるでしょう。しかし、これだけではコミュニティを構築したり社会的な意義を与えたり、自身や他者を害するまで湧き上がる怒りを抑えられないような個人を癒やすことにはならないのです。

To Kill a Mockingbird では世界中にある大量虐殺者像: そこから抜け出すすべのない社会的不適者、にあてはまる2名の登場人物による究極の生への葛藤が描かれています。両者の違いは Bob Ewell が全ての価値を尊敬と地位を勝ち取ることに見出していたのに対し、尊敬や地位を勝ち取るための背景すら持たない Boo Radley は Finch 家の子供達との友情に価値を見出していたことです。そのため、Boo は彼等を守るために戦い、高潔な死を遂げ、Bob は自身のプライドを守るために卑劣な死を迎えます。このように、英雄的行為と卑劣な行為を分けるのは意味ある人間関係の有無によるものだといえるでしょう。

私達は毎日ニュースで暴力的な事件について見聞します。これらは私たちの眼前で行われる現代社会の悲劇です。私たちが暴力から遠ざかっているのは免疫があるからではなく、私たちが享受している特権によるものかもしれません。1995年のオウム真理教による地下鉄サリン事件が証明するように、カルト集団による無差別攻撃にはこれまでの伝統的な「武器」はもはや必要とされていません。しかし、幸運なことにKISTコミュニティにはより強い絆を持った共感的な思いやりのある世界的なコミュニティを構築するための手段: 公正、共感、妥協・対話、があります。

Atticus Finchは作中で、この小説の題名になぞらえた有名な台詞:「したければ、そしてもしできるなら、全てのアオカケスを撃ち殺すがいい。でも覚えておきなさい。物まね鳥を殺すのは罪なのだ」と述べています。

銃を持たない社会ではこの台詞の意味は変わってくるでしょうが、問題は残ります。Harper Leeの小説は私たちの政治的事情-私たちが悪、社会的不適合者、テロリストとみなす blue jays が私達を常に攻撃しているのだということ-を充分に予見することが出来ませんでした。武力による攻撃が無くなる世の中を目指して、自身の欲望のみを価値観とすることを是正し、絶望的な死で終わる物語ではなく、世界の暴力が社会全体の協力によって癒される物語を共に書き綴りましょう。

Steven Otis
Secondary Subject Area Coordinator—
English



保護者の方にお勧めの教材

Podcastsを使っていますか？

YouTubeやその他のビデオメディアではなく、家族で定期的に podcast を聞いている人はいませんか？ Stephanie Hayesは、[The Atlantic](#)の記事で、podcast が学習と創造性にもたらす影響についての最近の研究についてまとめています。

“

「Podcast を使用する際に画像・映像が伴わないことが想像力を最大限に掻き立てる原因となっています。視覚情報がない分、視聴者はその情報を埋めようとします-そして視聴者が子どもである場合、その影響は非常に大きなものになります。数多くの研究結果により、7歳から13歳までの子どもたちはテレビで放送する物語より、ラジオドラマにたいして想像力を発揮すると証明されています。聴覚による物語は、TVよりも子どもたちが流れに沿った画像・映像をイメージし、より独創性のある質問をし、創造性のある問題解決策を生み出すことを啓発してくれます」

あなたとご家族が podcast を開始するのに最適な以下2点をお勧めします。

- [Tumble – a science podcast for kids](#)
- [Brains on! – a podcast for kids & curious adults](#)

楽しい学習を！

知っていましたか…

- アメリカの [Common Sense media survey](#) によると、8歳以下の子どもの半数近くが自分の携帯機器(スマホを含む全てのモバイル機器)を持っているそうです。
- アメリカの [別の研究](#) によると、手持ち機器の画面を見ている時間と幼い子供の言語発達の遅れには相関関係があるそうです。



予定表に入れて下さい

KIST CAが

Screenagers

上映会を2018年4月13日に行います



賞を受賞したSCREENAGERSはディレクター自身を含む家族生活と、ソーシャルメディア、ビデオゲーム、学習や、インターネット依存との戦いを掘り下げています。この映画や、家族のサポート方法についての詳細はこちらをご覧ください

www.screenagersmovie.com

TELL特別親業プログラム TELL EXCEPTIONAL PARENTING PROGRAM (EPP)

Educational Workshops for Families, Educators, and Professionals who work
with Children with Learning Differences/Diverse Needs

ご家族、学習障害や多様なニーズを持った子どもたちの教育・支援に関わる
教育関係者、専門家を対象とした教育ワークショップ。

飲酒と家庭への影響

ALCOHOL USE AND ITS EFFECTS ON THE FAMILY

Presented by Michael Nevans, TELL Clinical Director

We will look at how alcohol and other drugs can impact the family dynamic.

We will focus primarily on teen alcohol and drug use as it is especially
dangerous: it's illegal, blocks real solutions to problems, and may have
lasting effects because their brains are still developing. Learn how you as
parents and educators can help prevent problem behaviors, particularly
alcohol and drug abuse, in teens.

Tuesday, 16 January 2018 7:00pm-9:00pm

Location: Wesley Center, Seminar Room 205

Address: 6-10-11 Minami Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0062
(Map and directions attached)

Phone: 03-4550-1146

To RSVP email excep.parents@telljp.com

****Donations of 1,000 yen are appreciated****

telljp.com/outreach/epp/

tell

Outreach

五井平和財団

作文コンテスト優勝者

2017年度、五井平和財団作文コンテスト優勝者の **Neda** (ボスニア出身 - 右から3番目)と **Neha** (インド出身 - 右から4番目)が11月28日に先生方や財団代表の方々、ボスニア・ヘルツェゴビナ大使夫妻とともにKISTを訪問されました。NedaとNehaはKIST生たちと時を過ごし、日本の国際教育について学びました。

2018からは是非KIST生のコンテストへの参加を期待しています！KISTから将来の優勝者が出るかもしれませんね！



秋の色彩

一年の終わりが近づいてきましたが、皆さんには11月末にKIST周辺で見られる美しい色彩をお楽しみいただきたいと思います。



写真は Mr Larsen と Mr Bradley のご厚意により提供していただきました。